

水は海峽を渡った



一天草郡五和町通詞島にて

青い丘陵の島

— 写真は通詞島 —

通詞島の周囲は四キロしかない。天草郡五和町の唯一の離島であるこの島は、全島なだらかな丘が起伏してその猫の額ほどの島にはさやかに麦と甘藷がつくられている。島の暮しは大半が漁業に支えられ、島の近海は豊漁海域といわれた。こやいかなどが多くとれるという。人口一二七世帯、八〇〇人、それはいかにも平和な緑の孤島という感じである。

水は天から貰って…

この島にまさしく歴史的事業として水道がひかれたのは昨年の十月のこと。五和町二江の水源から三五〇米の海底を通してビニールの水道管で通詞島に送られ、島の人たちは生まれはじめてホースから溢れる冷たい水を口にしていた。

水は生活のすべてだともいわれる。その水がこの島にはほとんど湧かなかつた。水が出るという井戸は島内に二つ。かなく、それも雨期の二カ月ぐらいのもので、その塩分の多い水では島民をうるおすこともできなかつた。いつの昔からか島民たちは、雨水を天水桶に貯めて飲用に使ったり、表流水の溜枿(ためます)を共同で使ったりした。ひてりの夏はたちまち飲用水に不自由して悲鳴をあげていた。対岸から水を舟で運ぶことも容易ではなかつた。

伝染病と火事と…

水が生活に禍いすると恐ろしい事態が生まれる。島民の殆んどがトラホームにかゝつた。女の人は思うように化粧もできない。粗悪な水を仕方なく使うので毎年消化器系の伝染病が多く発生した。環境衛生ということから考えても一日もゆるがせにできない深刻な状態におかれ



むかしは小船で水を運んだこともあつた……★

島の話

島の古老の話によると、明治の初めごろこの島に大火があつてアツというまに全焼してしまつたことがある。そして火事の恐しさは今でも言い伝えられて九月二十八日のその大火の日を「慎しみの日」として全島仕事を休む習慣が守られている。それというのもすべては水飢饉が禍いしての出来ごとでもあつた。

難工事だつた海底布設

五和町では、この島の水道施設を真剣に検討し、三十年頃から盛り上つた島民の要望にこたえて全面的に、計画とその態勢に乗出した。県への陳情も熱心に行われ、その結果三十三年四月いよいよ工事が着手されることになつた。一時間六ノットという潮流の速い海峡の底に延々とビニール管を施設することは、技術的に極めて困難な工事であつた。だが三十三年十月ついに待望の水は海底を通過して

夏の健康を守るため

伝染病は未然に防ごう



健康

暑い季節特に夏になると、暑さのため疲労したり、胃腸を書したりしますが、そのなかでも恐ろしいのは、夏の伝染病と食中毒です。

伝染病といつてもその種類はたくさんありますが、四、五月頃から夏にむかつてだんだん多くなり、八月、九月を最盛期とする伝染病は、赤痢、腸チフス、パラチフスなどの口から感染する消化器伝染病と、蚊が刺すことによつて感染する日本脳炎とがあります。この他に、同じ暑い季節に多発しやすい食中毒もあります。

赤痢などの消化器伝染病や食中毒が夏に多いのは、その原因になる赤痢菌や腸チフス菌等は食中毒をおこすサルモネラ菌、ブドウ球菌などの細菌の活動にきわめて好都合の気候となるからです。さらに暑さのため胃腸が衰弱

することもこれをたすけます。また日本脳炎が多くなるのは、蚊の発生とその病毒(ウイルス)の繁殖が、やはり好条件となるためです。そこで、私たちが、これらの病気の予防に注意するに、夏の健康を守る第一の要件です。では、これらの伝染病、食中毒はどのようにして予防すればよいのでしょうか。

- ▼ 赤痢の予防はまず個人々々の注意からこれが赤痢予防の基本的なことで他人にうつさず、自分もかゝらずという個人衛生が十分に守られることです。それには
- ▼ 手洗の励行 用便後、食前、帰宅したら先ず手を洗うこと、特に調理する人は調理前丁寧に手を洗うこと。
- ▼ ハエ・ネズミの駆除 一部落、一村、一町さらに都市と各

個人が協力して地域全般に駆除を行うことが最も効果的ですが、各家庭などでも調理室の清掃、整頓、ハエ・ネズミの出入りができないように工夫するとともに駆除を行うことが必要です。

- ▼ 便所の改善 汲取口の密閉、流水式の手洗設備、石けんや消毒薬を常備する。また窓には金網をはつてハエの出入を防ぐようにする。
- ▼ 使用水の注意 井戸の改善、水の悪いところは簡易水道を設置する。
- ▼ 生水、生もの注意 完全な上水道以外は生水を飲まないこと。また生ものを食べる時は清潔な店を選んで買うように注意すること。なるべく加熱して食べることが安全です。
- ▼ 暴飲、暴食を避けること もし感染すると発病を助長するから。
- ▼ 下痢したら赤痢と思え 赤痢には軽い下痢程度のもものが少なくないことを常に考えておき、下痢をすれば一応赤痢を疑つて予防措置を行い、つとめて医師の診療を受けることが大切です (衛生部)

農薬の購入

農薬(特定毒薬)を購入する場合は、農協や共済組合以外のものでは、知事から特定毒物使用者指定を受けた農家組合が、指定証と組合長の印鑑を持つて登録を受けた販売店から買うほか、個人では絶対に売買できません。

使用上の注意

- 長く使いたれた農薬であるため、粗雑な取扱、長時間の散布、服装の不備、風向や他人に対する不注意などからの事故が多く見られます。
- ▼ 養畜家、学校、田畑に隣接する一般の家の人々に対して十分連絡をとつて、防除の二日前から終了後七日間はわかりやすい所に必ず公示する。
- ▼ 散布地には一筆毎にはっきりした赤旗を七日間立ておく。
- ▼ 必ず指導員の指導で共同防除を行うこと。
- ▼ 個人防除は絶対やらない。
- ▼ 空ビン、空袋、残薬は確実に処分する。
- ▼ 野菜、花種類はなるべくさける。
- ▼ 身体が悪い人、手足の傷のある人、年少者、老人、生理中の婦人は作業に従事しない。

農薬の保管

農薬の保管不備による事故が最も多いようです。保管は指定を受けた農家組合の長が、指定された保管箱に、厳重なカギをかけて保管する。どんな少量の使用残薬でも、個人では保管することも他に販売することも、他人のものを預かることも、預けることもできません。(農業改良課)



島民の台所にとどいた。

脱皮した島の生活

やつと島の人たちは水い間の水の悩みから解放された。それでも、みじめだつた昨日までの苦しみは忘れない。子供たちが面白がつて水を弄ぶと親たちは勿体ないといつて烈しくたしなめる。ある老婆は「ほんに生極楽に行つたこと」と身の伴せをひとしお感じている。水道をひいたおかげで、台所の設計も次第に合理化されてきた。もうボイラの湧いた水で御飯をたくこともない。主婦は洗濯することが楽しみとなり、家族の身まわりも見違えるほどキレイになつてきた。水が生活を変えてゆくというほ、えましい現象はいろいろな面で見られるようになった。そしてこの見事な「島の改革」は、島の人びとに今までにない新しい希望と意欲を抱かせている。(広報課)

おかげで老婆たちは極楽だという……★